

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 21 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

確かに教会は病院です。

傷ついた人が来て、最高の医師イエス・キリストに触れられる場所。(マタイ 9:12)

傷ついた人が来て、教会の家族の愛に満ちた空気で癒されることのできる場所。

確かに教会は傷ついた人にとっての病院であるべきです。

それから、これもまた確かなのが、教会は学校であり、私たちが神に認められた者であることを証明するために学ぶ場所。

真理のみことばをまっすぐに解き明かす、恥じることのない働き人となる。(IIテモテ 2:15)

確かに確実に、教会は病院であり学校であるべきです。

また教会は体育館でもあるべきです。

「自分の信仰を鍛えなさい」と言われていますから。パウロは言いました。

恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。(ピリピ 2:12)

教会は、救いに努め信仰が鍛えられる体育館としての存在であり、傷ついた人が助けられ癒される病院であり、みんなが正しく生きるための教えを受けている学校です。

その他にも教会には果たすべき様々な役割があります。

でもね、皆さん、絶対に忘れてはいけないことで、恐らく多分重要な役目は、私たちは旅行代理店だということ。旅行代理店です。

人々の、天国への永遠の旅の予約を取らなければなりません。

そのためには、人々が救われなければならない。

人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。(マルコ 8:36)

自分の救いに努めても、自分の心が癒されても、勉強して神学を完璧に理解していても、自分の周りの人たちが迷い出て永遠の地獄に行ったとしたら、何の得がありません。

私たちには、全世界に出て行って福音を宣べ伝え、人々と良い知らせを分かち合うという、主から与えられた素晴らしい任務があります。

それで、黙示録 21 章と 22 章は“旅のご案内”

皆さんもよく知っておく必要があります、私もしっかりと握っておかなければなりません。

“旅のご案内”は、この先に起こることの予告編のようなもので、私たちがどこに向かっているのかを知らせてくれます。

永遠の行き先、究極の目的地、天国について見せてくれます。

21 章 1 節は、永遠の目的地について、真新しい世界について伝えていて、それから 21 章を通して見ていくと、9 節では新しい都について書かれています。

まずは、真新しい世界。

また私は、新しい天と新しい地とを見た。

以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。(黙示録 21:1)

どうして新しい天が必要なのでしょうか？

新しい地が必要なのは分かります。地は汚染され破壊されましたから。

でも、なぜ天も必要なのか。

それは、**天も神の目にはきよくない。(ヨブ記 15:15)** から。

つまり、汚染源であるサタン、敵である悪魔が天国に出入りしていたので、天国も汚染されているということです。

12 章に書いてありましたね。サタンは天国に住んではいませんが、出入りすることは可能でした。

敵が天国を汚したため新しい天が必要なのです。新しい地が必要なと同じです。

だから、**見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。先の事は思い出されず、心に上ることもない。(イザヤ書 65:17)**

真新しい世界、新しい創造、新しい都。

私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。(黙示録 21:2)

新しい創造や都だけでなく、3 節では新しい聖餐を持ちます。

そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。

「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、(黙示録 21:3)

彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」(黙示録 21:4)

新しい創造、新しい都エルサレムは、後ほどお話します。

“新しい聖餐”。“新しい聖餐”とは？

「あなた方と共に住む」と神は言っています。神の臨在。

現在は、聖餐の時にはテーブルに着きますね。そこでパンを味わい、杯を取り、そうすることで神との交わりを切望します。でもパウロの言葉は正解で、**今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、(Iコリント 13:12)**

新しい聖餐では、視覚として見える実際の神の栄光を目にします。

もうぼんやりとはではなく、垣間見るのでもなく、どうにかつかみ取ろうとするのでもなく、現実のものとなるのです。

それは、あなたが想像しているのと私が思っているのが少し違ったり、この兄弟やあの姉妹が考えているのともまた違うという事は一切なく、私たち全員が主の御前にいるのです。主の御前。新しい聖餐。

そして悲しみはありません。すごいですね！ 神が目の前にいて、悲しみがない。

全ての涙が拭われます。悲しみも苦しみも死も、もうない。

その時には悲しみは全てなくなります。皆無。ゼロ！

と言うと、あなたはこう言いたいでしょう。

「新しい天と地で主と共にいる聖餐。それはとても素晴らしいと思います。神の臨在も。でもね、ジョン。もし娘が、父が、夫が、息子がそこにいなければ、天国にいないのなら、神の御前がどんなに素晴らしくても、私は泣いてしまうでしょう。それも一時ではなく永遠に。」

いいですか。再びイザヤ書 65:17 です。

先の事は思い出されず、心に上ることもない。(イザヤ書 65:17)

これはどういう意味でしょうか。

あなたや私が天国に行った時には、そこにいない人のことはもう記憶にありません。

母親や息子や配偶者、その他クリスチャンでなかった人たちを思いながら永遠を過ごすことはないのです。天国の一員になるための招待状を、自からの選択で受け取らなかった人たちのことは一切思い出しません。

天国に「でも」はありません。存在しません。「これはすごい！ただ…」いいえ。

先の事は思い出されず、心に上ることもない。(イザヤ書 65:17)

そうなると、また違う疑問が湧いてくるでしょう。

「もしそれが事実なら、天国ではお互いが分からないのか？」

それに対する私の答えは、何年も変わらず今も同じ。「天国では、地上にいる時以上に愚かになる事はない。」

ここでお互いを知っているなら、あちらに行った時も分かります。これは確かです。

むしろ「天国でもお互いが分かるのか？」と言う以上に、「私たちは天国に行くまでお互いを知らない。」と私は思います。

なぜかと言うと、どうしても癪に障るという人はいるもので、「彼女とは永遠を過ごしたくない。」「彼が隣に住むなんてとんでもない！やめてよ!!」

でもね、天国に行ったら、今は私たちが苛つかせ、嫌なことをして癪に障る人たちが、見事に完璧に変えられるのを見て、大変驚き、感動し、感嘆するでしょう。

全てクリスチャンは主が現れたなら、**私たちはキリストに似た者となる (Iヨハネ 3:2)**

配偶者であれ、今隣に座っている人であれ、あなたをイライラさせることは根絶されて全て消失します。

天国でもお互いが分かるか？分かります。そしてパウロが言うように、**人間的な標準で人を知ろうとはしません。(IIコリント 5:16)**

誰も“人間的な標準で人を知ろう”とはしない。そのことに私は感謝します。

マタイ 17 章。山上でイエスの御姿が変わって輝きましたね。

その時、ペテロとヤコブとヨハネと一緒にいて、ペテロが言いました。

「先生。私たちがここにいることは、素晴らしいことです。もし、およろしければ、私が、ここに三つの幕屋を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」(マタイ 17:4)

この箇所を読むと、イエスが事前にお互いを紹介している場面がありません。

「ペテロ、彼がエリヤだ。」「エリヤ、彼はペテロだ。」「エリヤ、彼はモーセ。」

「モーセ、彼はペテロ。」そんな会話は一つもなくて、ペテロは即座にそれがモーセで、あれがエリヤだと分かりました。

ということは、天国ではお互いが分かるだけでなく、これまで会ったことのない人でも分かるようになるのです。そこではネームタグ（名札）は必要ありません。

『ハロー、My name is モー』名札なんか一切要らないのです。

これはすごいことだと思います。「彼女、名前は何だった？」「あの人、誰だっけ？」といことはなく、はっきり分かるのですから。

しかも人間的な標準では人を見ないのです。実に素晴らしいと思いませんか？

先の事 (イザヤ書 65:17)。これは天国にないもので、その中には自分が犯した罪、それから他人が自分に対して犯した罪も含まれていて、それら全部が、**先の事は思い出されず、心に上ることもない。(イザヤ書 65:17)**

新しい聖餐。そう、主が目のおられて、そして悲しみがありません。

もう一つ素晴らしいのは、真新しい世界の新しいコミュニティ。

新しい創造、新しい都、新しい聖餐、そして新しいコミュニティ。

聞いて下さい。5 節。

すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」(黙示録 21:5)

「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」

なぜ主は、こう言われたのですか？

それは、これから聞くことが真実だと信じるには、あまりにも素晴らし過ぎるから。

私たちが待っている新しい天、新しい地はそれほど素晴らしい。

さて、新しいコミュニティについてはどうでしょうか。6 節。

また言われた。「事は」事は？「成就した。」(黙示録 21:6)

キリストが十字架上で叫ばれた「完了した」とは異なり、こちらは「成就した」仕事を完了させた大工の言葉です。

仕事とは？ 見渡して下さい。

私は自分の周りを見渡すだけで、自然の中の多くのことにとても感動します。

でも言うておきますが、神は、主ご自身キリストは、これら全部を6日間で創られました。そして2000年前に主は、**あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。(ヨハネ 14:2)**

これら全てを6日間で創られた主が、2000年かけてどれだけのものを創られるか想像できますか？どんな風になるのか想像できますか？私にはできません。

しかし私たちは知っています。大工であり、創造主であるキリストがこれらを創って言われたのは、**「事は成就した。」(黙示録 21:6)**

成就しました。「ほとんど」ではなく「成就した」のです。

「そのうち仕上げるからちょっと待って。」でもなく「成就した！」

この新しいコミュニティは、目を見張るような、満ち足りる場所です。どんな風に？

わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。(黙示録 21:6)

そこは3つの意味で満足させる所です。

第1に“資源”。

水はどのコミュニティにも不可欠で、水がなければコミュニティは造れず、町を創設することができません。この新しいコミュニティは、出来上がるや否や、まず、水がどんどん流れ出します。素晴らしい！

第2に“責任”。

ここを見て下さい。勝利を得る者は、これらのものを相続する。(黙示録 21:7)

勝利を得る者とは新しい天、新しい地にいる者、つまり皆さんと私がこれらのものを相続します。

“相続”するものは、ただ単に素晴らしい“物”だけではなく、“任務”のことです。

つまり、単にスポーツカーやジェット機やプールや、その他色々な物を得ることはありません。

「これらのものを相続する」のイメージは、父親が会社を息子と共有するような感じで、全ては私たちが楽しむためのものであり、私たちのために創造されたものです。

しかし、永遠の時の中で、これらの物質的なものを与えられるだけでなく、“責任ある仕事”も与えられます。「そんなもの、いらない。」

それについてお話ししましょう。よく聞いて下さい。

あなたが心底、ほんとうの本当にやりたいと思っているのにできないこと。

ある人は機械類に熟知していて、エンジンを解体しては組み立てる、これに没頭することで大満足を得る。またある人は作家だったり、アーティストだったり、ミュージシャンやバレーボールの選手だったり。「ビーチでプレーするビーチバレーが大好き!!」と言う人もいるでしょう。

「でも、できないんだ。働かないと食べていけない。」「僕にはこれこれの責任があるから…」「あー。ただギターを弾いていたい。」「家のリフォームをやりたい。」

では、言いますよ。あなたの中にあるそれらの願望は、欲求不満となっているでしょう。今は生きてい

くのに大変だから。なぜ、生きていくのが大変なのですか？

それは、呪いのためです。呪い。

呪いのために人は、**顔に汗を流して糧を得、(創世記 3:19)**

神は、この世界で生きていくのは大変だと、まさに最初の時点で言いました。

ところで、あなたの願望の何をしてもいいと言われたら何をしますか？何を選びますか？

それが、あなたが永遠の時に行く、もしくは関わることだと私は思います。

神が意味もなく、あなたに願望や技術を与えとは思いません。

あなたの人生に於いて、それらはまだ成熟していないでしょう。

でも神は、「わたしはそれをあなたに与えたのだが…」「その技術をあなたの中に備えたのだが…」「そのことをあなたの思いの中に入れていのだけど…」「まあ、いい。あなたはもう天国に来たんだし、そんなことは忘れてしまいなさい。」とは言いません。

熱中し、魅了され、もっともっと没頭したいと思うことを、皆さんは永遠にできるようになると私は思います。

イイですか？人生は短い。

「あれもこれもしたかったのに。」「これができたなら。」とと思っている人。人生は短い。でも心配しないで!!!

時が来れば、あなたも主のために働くのです。

どの分野で？あなたが魅了される分野、情熱を捧げる分野、ゾクゾクする分野、「楽しくて仕方がない!!!」と思える分野です。

もし、あなたが数字アレルギーなら、「さあ、この計算機で、通りに敷く金がどれくらいになるか計算しなさい。」「数字をたたき出せ！」なんてこと、主は言いません。

主はそんなことしませんよ！

主はあなたを特別なかたちに創られました。

計算が大好きな人たちがいるのですから、彼らがやればいいんですよ。

きっと「最高だ！18×33…」とか何とか言いながら、喜んでやるでしょう。

神がそのように創ったんです。

とにかく私たちは、**これらのものを相続する。(黙示録 21:7)**

繰り返しますが、物質的なものを相続するだけでなく、仕事も相続します。

そして満足します。「ああ、満足だ。」と言うようになります。

そこは満ち足りた所で、成就しているのです。

改造したり修復したりする必要はもうありません。

それから、資源があります。いのちの水の泉から無料で飲める。

それに責任ある仕事。父のビジネスを相続して携わる。素晴らしい！

ということで、“資源”“責任”そして最後に“関係”

7節はこう続きます。ここが満ち足りた世界である理由は、

わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。(黙示録 21:7)

ステキです。ほら、ヨハネ 3:16 には何とありますか？

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ 3:16)

ルカ 11:13 には、してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがあります。 (ルカ 11:13)

神はひとり子を与えて下さり、それに、聖霊も与えて下さいました。素晴らしい。

でもその日、新しい天では、神はご自身を私たちに与えて下さいます。

わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。(黙示録 21:7)

あなたは私に いのちの道を知らせてくださいます。

満ち足りた喜びが あなたの御前にあり

楽しみが あなたの右にとこしえにあります。(詩篇 16:11 新改訳 2017)